

## モンゴル土木学会 (MACE) 年次大会に参加して

フェロー会員 土木学会会長 石井弓夫  
正会員 土木学会事務局 松田光弘

(社)土木学会(JSCE)と協力協定を結んでいるモンゴル土木学会(MACE: Mongolian Association of Civil Engineers)からの招聘を受けて、MACEの年次大会に参加し、また、関係機関を訪問してまいりました。現地での活動について報告いたします。

### 在モンゴル日本国大使館表敬訪問(6月6日)

市橋康吉特命全権大使を表敬訪問し、意見交換を行いました。

現在モンゴル国は、建設ラッシュとなっています。これに対して、市橋大使は、現在の品質管理、安全管理でよいものかいつも考えているとのことでした。

市橋大使からは、日本とモンゴルの土木技術者や学生同士の技術交流や指導など、JSCEへの期待の言葉をいただきました。また、他国がどんどんモンゴル国内の建設産業に進出してきている現状をみて、日本の国土交通省に対しても期待したいとの意見もいただきました。

JSCEからは、モンゴル分会の活動、MACEとの協力協定に基づく活動について説明し、今後も協力を惜しまない旨をお伝えしました(写真-1)。



写真-1 市橋康吉特命全権大使、Dorjderem JSCEモンゴル分会長と一緒に

### MACEとの意見交換会(6月6日)

Ganzorig 会長以下幹部の方々との意見交換を行いました。



写真-2 MACE事務所にて意見交換会

インフラ整備の必要性が増加しており、MACEはできるだけ短い時間で成果を出す方法を勉強したいと

のことでした。JSCEからは、敗戦後の日本の発展の経験に基づくモンゴルへの協力方針や、品質を重視すべきであるとの考えを述べました(写真-2)。

### MACE 年次大会開会式(6月7日)

MACE 会長、建設都市開発大臣に次いで石井会長が挨拶する機会を得ました。

日本の成功の基礎は海外からの技術移転とインフラ整備にあったこと、JSCEはその経験からMACEに対して協力すると述べました(写真-3)。



写真-3 開会式には多数のMACE会員が参加

### モンゴル道路学会(MARE)との意見交換会(6月7日)

モンゴルには、MACEとは別に、道路学会(MARE: Mongolian Association of Road Engineers)があり、その専務理事と意見交換を行いました。

別組織になっているのは、関連する省庁が分かれているからとのことでした(MACEは建設都市開発省、MAREは道路・運輸・観光省関連)。MAREからは、JSCEの協力を得たいとの要望がありました。現在JSCEはMACEと協力協定を結んでいるので、MACEとMAREとで「傘型」学会をつくり窓口を一本化してほしいと述べ、合意しました。この件はMACEも了解とのことでした(写真-4)。



写真-4 MARE幹部と一緒に

### JSCE-MACE ジョイントセミナー(6月8日)

「建設マネジメント、高層ビルの計画・設計」をテーマとした JSCE-MACE ジョイントセミナーが開催されました。

このセミナーは、JSCE の出資(学術交流基金)により実現したものであり、高知工科大とモンゴル科技大が実務面で貢献しました。発表 8 件のうち 6 件が JSCE、2 件が MACE からの発表で、合計 200 名以上の参加者が熱心な討議を行いました(写真-5)。MACE の活動分野には建築も入っているので、このようなセミナーとなったのです。



写真-5 ジョイントセミナー参加者の集合写真(MACE 撮影)

### モンゴル国建設都市開発大臣表敬訪問(6月8日)

台湾の中国土木水利工程學會(CICHE) Yang 会長、MARE の Ganzorig 会長とともに、Narantsatsralt 建設都市開発大臣を表敬訪問しました。

JSCE からモンゴルに対する協力方針を述べたのに対し、大臣からは、JSCE モンゴル分会の設立がモンゴル国にとって意義が大きいこと、MACE と JSCE との協力に期待すること、高知工科大とモンゴル科技大との友好的な交流の拡大のためにできるだけの協力を行うこと、等の発言がありました(写真-6)。



写真-6 Narantsatsralt 建設都市開発大臣との会談

### ラウンドテーブルミーティング(6月9日)

この日は首都ウランバートルから 90km 離れた「13 世紀国立公園」に向かいました。途中までは日本の援助で建設した国道を走りますが、国道を外れてからは「道なき道」をひたすら走りました(写真-7)。

ラウンドテーブルミーティングの会場は、ゲル(モ

ンゴル独特の、木の骨組みとフェルトで作った円形のテント)でした(写真-8)。テーマは「CPD」です。JSCE から、石井会長が、日本の発展にお



写真-7 草原に行く

ける Capacity Building の重要性を歴史的に述べ、JSCE の CPD システムについて発表しました。CICHE から、土木以外のさまざまな分野を学ぶことも重要との発表がありました。

会議の合間や終了後には、ゲルの組み立て体験(写真-9)、モンゴル料理の昼食、モンゴルの民族音楽の演奏、ゲルの生活様式の解説等があり、モンゴルの文化を垣間見ることができました。



写真-8 「ゲル」の中でのラウンドテーブルミーティング

写真-9 会議参加者でゲル組み立てを体験



### 出張を終えて

JSCE 会長がモンゴル国を訪問するのは、これが初めてでした。

組織同士の友好関係といっても、結局は人間同士の信頼関係のうえに成り立つものです。

現地で顔を合わせ、議論を戦わせ、酒を酌み交わしたことは、大いに意義があったと思います。

この半月後に台北で開催される「第 4 回アジア土木技術国際会議」(4th CECAR) での再会を約束し、6 月 10 日に帰国の途につきました。

なお、会期中、JSCE モンゴル分会の方々には多大の支援をいただき、感謝の気持ちで一杯です。分会の重要性を改めて認識いたしました。